

登録コード	L2720200	開講年度	2026	
担当教員	中澤 光平	副担当		
授業科目	日本語学概論Ⅱ			
英文授業名	Japanese Linguistics: Introduction Ⅱ			
授業タイトル	日本語の多様性			
単位数	2	対象学生		講義期間 後期 曜日・時限 木曜・1時限
講義室	人文212講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ			
	【2022年度以降対象】 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力		⇔	日本語という身近な存在に対し、音声学や言語学の知識をもとに客観的な分析ができるようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降対象】 人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	日本語学に関する基本的な概念・用語を理解し、日本語を言語学的な観点から分析することができるようになる。
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働			
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース			
授業の概要	日本語には古代から現代までという時間的（歴史的）多様性と、方言という空間的（地理的）多様性がある。そのように多様な日本語をどのように分析するかという視点が日本語学には必要である。この授業では、日本語の体系的、網羅的な分析を通じて日本語研究の方法論を学び、論理的な思考力を身につけることを目的とする。 「概論Ⅱ」では古代語および奄美・沖縄の言語を含む日本語の諸方言を対象として、日本語学に関する学術的な概念・用語について解説する。単に丸暗記するのではなく、自ら問題を発見し解決するのに役立つ能動的な知の習得を目指す。内容は音声・音韻、文字・表記、語彙、文法などに分けて扱うが、相互の有機的な結び付きを意識し多角的な分析が行えるようになることを目標とする。			
授業計画	第1回 日本語の範囲 第2回 日本語の文字・表記の多様性 第3回 日本語の音の多様性（1）：母音、子音、音節構造 第4回 日本語の音の多様性（2）：アクセント、イントネーション 第5回 日本語の活用の多様性 第6回 日本語の語形成の多様性 第7回 日本語の語形の多様性 第8回 日本語の助詞の多様性 第9回 日本語のヴォイスの多様性 第10回 日本語のテンス、アスペクトの多様性 第11回 日本語のモダリティ、文タイプの多様性 第12回 日本語の語義の多様性 第13回 日本語の比喩表現の多様性 第14回 日本語の敬語の多様性 第15回 まとめ、授業アンケート 定期試験			
成績評価の方法	リアクションペーパーに基づく平常点（50%）と期末試験（50%）をもとに評価する。 リアクションペーパーは第2回～第14回の計13回分の提出が求められる。 期末試験は下記のいずれかを満たす場合に受験を認める。 ・出席が12回以上（初回、最終回を含む） ・アンケート（リアクションペーパー、授業アンケートとは別）への回答が10回以上 ・授業期間中に実施する確認小テストの得点が8割以上			
成績評価の基準	日本語学の重要事項を不完全ながらも理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語学の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語学の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語学の全体を理解したうえで自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」			
事前事後学習の内容	講義内容について復習して知識の定着を図るとともに、参考書等により予習を行うこと。 60時間以上の時間外学習が必要となる。予習と復習は併せて毎回4～5時間程度行うこと。			
履修上の注意	「日本語学概論Ⅱ」は「概論Ⅰ」を履修していることが前提となる。そのため、教職課程その他の関係で「日本語学概論」を1つ履修する予定の場合は「概論Ⅰ」の履修を強く推奨する。「概論Ⅰ」が既習でない場合、「概論Ⅱ」の履修は推奨しない。どうしても履修を希望する場合は授業担当教員に相談すること。日本言語文化コース（日本語学）所属（を希望している）学生は「概論Ⅱ」を履修することを強く推奨する。また、「日本語史」の授業を受講する場合、事前もしくは同時に「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」を受講しておくのが望ましい。			

質問、相談への対応	できるだけ講義が終わった後に質問するように。授業後に提出を課すリアクションペーパーに質問事項を書いてもよい。必要であれば教員あてにメールでアポイントメントをとること（メールアドレスは kohein@shinshu-u.ac.jp）。
教科書	使用せず、毎回プリントを配布する。
参考書	衣畑智秀（編）（2023）『基礎日本語学 第2版』ひつじ書房 井上史雄ほか（編著）（2016）『はじめて学ぶ方言学 ことばの多様性をとらえる28章』ミネルヴァ書房 木部暢子ほか（編著）（2013）『方言学入門』三省堂 工藤真由美・八亀裕美（2008）『複数の日本語』講談社